[研究成果]

なし「幸水」の施肥省力化技術（年１回施肥）

なし「幸水」では、成木において 11 月又は３月に基肥・礼肥を同時施用することで、慣行の年２回の施肥体系から、年１回施肥に省力化することができます。

【背景】

本県における「幸水」の施肥は、基肥と収穫後の礼肥が一般的に行われています。基肥は凍害防止の観点から３月施用が推奨されていますが、剪定作業と競合することから 11 月に実施されることがあります。また、礼肥についても、「豊水」の収穫時期と近接するなど実施が困難な状況にあります。以上のことから、肥効調節型肥料を組み合わせ、**年２回行っている施肥作業を１回で済ませられる省力的かつ効果的な施肥体系の確立**について検討しました（表１）。

【結果】

成木においては、11 月又は３月に基肥・礼肥を同時施用しても対照区（基肥３月、礼肥９月）と比較して施肥効果に大きな影響はないという結果でした（表２、図）。対照区は１果重が重く、収量が多い傾向が見られましたが、試験実施前から供試樹の生育が旺盛であったことが要因の１つと考えられました（図）。また、糖度が対照区よりも高くなる傾向が見られましたが、総じて試験区間での明確な差は認められませんでした（表２）。

以上のことから、**なし「幸水」については、肥効調節型肥料を組み合わせることで従来の年２回の施肥を年１回に省力化でき、施肥時期は 11 月でも３月でも可能**であることが確認できました。

表１　施肥時期及び供試肥料

試験区	供試肥料	施用成分量（kg/10a）		
		N	P_2O_5	K_2O
基肥・礼肥同時施肥（11月）	LP100、LPS160、重焼りん、塩加	20	15	15.5
基肥・礼肥同時施肥（３月）	塩安、LP70、LPS160、重焼りん、塩加	20	15	15.5
基肥（３月）＋礼肥（９月）	BBなし・りんご007（基肥）、NK606（礼肥）	20	15	15.5

表２　幸水の果実品質（３か年平均）

試験区	１果重 (g)	横径 (mm)	糖度 (Brix%)
基肥・礼肥同時施肥（11月）	419±52	97.1±4.9	12.8±0.3
基肥・礼肥同時施肥（３月）	428±18	97.5±4.1	12.6±0.3
基肥（３月）＋礼肥（９月）	474±28	99.9±3.2	12.3±0.2

注　±：標準偏差

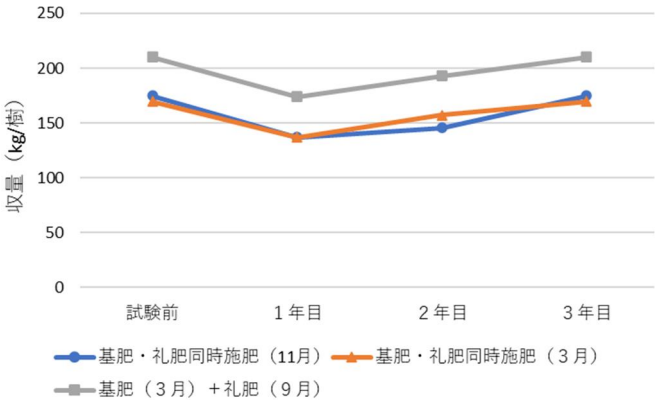

図　１樹当たりの収量

（果樹研究室　髙橋　優太）